

Title	Schwarz ノ定理ノ簡單ナ証明
Author(s)	佐藤, 徳意
Citation	全国紙上数学談話会. 7 p.11-p.14
Issue Date	1934-08-19
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73856
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

20. Schwarz の定理, 簡単 + 証明

11

佐藤 徳彦 (北大)

先月末から今月一週間はカケテ、札幌で中等教員講習会が行われ、
シタカ、吉田先生が、講義で Schwarz の一般化された二次多項式が
零である様+連続函数の一次多項式に近づくことを証明する。際、
函数は二次、簡単+性質の Lemma 1 を使った。その結果、
講習会では提出されたもの、証明は簡単で、結局通常、証明法が分解
できる。これは、証明は簡単で、結局通常、証明法が分解
できる。

Lemma 1.

函数 $f(x)$ は (a, b) で定義された連続函数である。 (a, b) 、任意の x で
 $f(x)$ が定義され、
 $0 < h < \delta(x)$

とすれば、

$$f(x+h) + f(x-h) \geq 2f(x)$$

成立する。つまり、 $f(x)$ は convex である。

証明

$x_1 < x < x_2$ とする。

$$f(x) \leq \frac{x-x_2}{x_1-x_2} f(x_1) + \frac{x_1-x}{x_1-x_2} f(x_2)$$

である。これを証明する。

1) $f(x_1) = f(x_2) = 0$ のとき、

12.

$f(x) \leq 0 \Rightarrow \exists \lambda, \exists \varepsilon f(x) > 0 + \text{レ } x \text{ カ "ア" ア"レ"ハ"}$

$f(x) = \max_{x_1, x_2} (x_1, x_2) = \max_{x_1, x_2} f(x_1, x_2)$ カ "x" 上端ヲ

x_0 トニル。故ニハ $f(x_0) = M (= \max_{x_1, x_2} f(x_1, x_2))$ ナリ

$$x_0 < x_2 \quad (\because M > 0)$$

$\forall \varepsilon > 0$ 存スル。カ $0 < h < \delta(x_0)$ ナリニハ

$$f(x_0 + h) < M = f(x_0)$$

$$f(x_0 - h) \leq M = f(x_0)$$

ガ成リ立ツル。故ニ

$$f(x_0 + h) + f(x_0 - h) < 2f(x_0)$$

ニハ 作反證ニ矛盾スル。故ニ

$$f(x) \leq 0$$

ii) 一般の場合

$$\varphi(x) = f(x) - \left[\frac{x - x_2}{x_1 - x_2} f(x_1) + \frac{x_1 - x}{x_1 - x_2} f(x_2) \right]$$

トナク。然レハナシ

$$\varphi(x_1) = \varphi(x_2) = 0$$

ナリカモ。 $0 < h < \delta(x)$ ナルハ $\varphi(x) \geq 0$ ナリ

$$\varphi(x + h) + \varphi(x - h) \geq 2\varphi(x)$$

ガ成リ立ツル。即チ i) 場合ニハ

$$\varphi(x) \leq 0$$

$$\text{ナリ換ハルト } f(x) \leq \frac{x - x_2}{x_1 - x_2} f(x_1) + \frac{x_1 - x}{x_1 - x_2} f(x_2)$$

Lemma 2.

13.

$f(x)$ が (a, b) で "convex" かつ "concave" かつ連続函数ならば $f(x)$ は一次函数なり。

証明、簡単であるから略す。

$f^{(2)}(x)$ を以て一般化カルタニ二次函数を表す。

$$\text{即ち} \quad f^{(2)}(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) + f(x-h) - 2f(x)}{h^2}$$

定理、

$f(x)$ が (a, b) で "定義" かつ連続函数で、 (a, b) において $f^{(2)}(x)$

が有し $f^{(2)}(x) \geq 0$

とある。此の場合 $f(x)$ は (a, b) で "convex" なり。

証明

i) $f^{(2)}(x) > 0$ なる時、

$$f(x+h) + f(x-h) - 2f(x) > 0, \quad 0 < h < \delta(x).$$

故に Lemma 1 により $f(x)$ は (a, b) で "convex" である。

ii) $f^{(2)}(x) \geq 0$ なる時

$$f_n(x) \equiv f(x) + \frac{1}{n} x^2 \quad (n=1, 2, \dots)$$

$$\text{と置く。} \quad f_n^{(2)}(x) = f^{(2)}(x) + \frac{1}{n} > 0$$

従って、 $f_n(x)$ は i) の場合、条件がすべて満足される。従って

$f_n(x)$ は i) の場合、条件がすべて満足される。故に $f_n(x)$ は (a, b)

で "convex" なり。従って x_1, x_2 が (a, b) に属する勝手な

14.

二乗ノ二乗ノ直ニ次ノ関係ガ成立スル。

$$f_n(x_1) + f_n(x_2) \geq 2f_n\left(\frac{x_1+x_2}{2}\right)$$

$$\text{即 } f(x_1) + f(x_2) + \frac{1}{n}(x_1^2 + x_2^2) \geq 2f\left(\frac{x_1+x_2}{2}\right) + \frac{2}{n}\left(\frac{x_1+x_2}{2}\right)^2$$

ニ、 $n \rightarrow \infty$ ナリシメタル。

$$f(x_1) + f(x_2) \geq 2f\left(\frac{x_1+x_2}{2}\right)$$

ニ、 $f(x)$ ガ (a,b) テ convex ナルニ示シテ可。

依テ定理ノ証明ナル。

同様ニ、 $f(x)$ 系ヲ得ル。

系。

定理ニ依テ $f''(x) \leq 0$ トスル $f(x)$ 〃 (a,b) テ ~~convex~~ concave ナリ。

定理ノ系トヨリ Lemma 2 ヲ用フル。次、Schwarz, 定理ヲ得。

定理。

$f(x)$ 〃 (a,b) テ 定常ナル連続函数ニ $f''(x)$ ヲ有シ

(a,b) 〃 在リテ $f''(x) = 0$ ナルニ $f(x)$ 〃 (a,b) テ 一次函数

ナリ。

(9.8.18 受取)